



村西 作雄 議員

高齢者外出支援サービスの実現を

Q 社協の空き車両を利用した実証実験を

A ボランティア運営できないか検討も一つの方法

すぐできる高齢者外出支援サービスの実現を
問 町内の高齢者が、買い物や通院の心配をすることなく、車の運転に自信を無くしたら、ためらいなく免許返納できる「外出支援サービス」の実現は、本町にとって喫緊の課題。
折しも庁舎の統合計画が進むなか、この計画と高齢者が気軽に自宅玄関から庁舎にも出向けるサービスを並行して進めないと、庁舎統合は住民の理解が得られないのではな

いかと危惧する。
甲良町社協では、「買い物送迎サービス」として、ドアツードアで社協の車両を昼間利用し、有償ボランティア運転手と日赤奉仕団員を添乗員として、週1回75歳以上の高齢者に、無償で買い物送迎サービスを提供されている。好評のため、この12月から午前1便、午後2便運行され、希望者には役場や金融機関にも寄られる。

また同町では、15年前から登録高齢者に対し、彦愛犬の病院と東近江市の湖東記念病院への医療機関送迎を、町が

有償運送の許可を取り、個人負担300円（湖東記念は500円）で週5日間その運行を社協に委託されている。買い物や通院、行政機関等への高齢者サービスは、運転手と添乗員を確保すれば町直営でも、あるいは社協へ支援をすればできる事業であり、来年度からの実証実験としての事業実施を求める。

答（福祉課長）
町社協の空き車両を移動支援としてボランティアで運営できないか、町と社協が話し合っ

て進めていくのも一つの方法と考えている。

だけ取り崩し、最終的に今年度末において基金残高はどれくらいと試算されているか。
答（経営戦略課長）
基金の取り崩しは、約1億5千万円となる見込みであり、利息分と合わせ今年度末は20億3千万円となる見込み。

問 来年度の町独自のコロナ施策について。
答（町長）
町民の健康と生命・財産を守り、暮らしを支えていくことが何より大切であり、来年度予算編成方針のもとで、コロナ対策を大きな柱としている。



歩道整備が待たれる国道307号（斧磨地先）

国道307号にかかる歩道整備促進について
問 町内東部を横断する国道307号は、平成25年10月の湖東三山SICの開通以降町内交通量も増え、SICの一日当たり利用台数も開通時の3000台から現在は4500台を超えるまでの利用がある。近年はビワイチブームで、「湖東三山館あいしょう」の利用促進を図る観光振興からして、三山館を拠点に湖東三山を巡るサイクリングやウォーキングのPRが重要と考えるが、その声はあ

らずと小さくなる。
307号の町域歩道は、他市町の整備状況からしてここ数年遅々として進んでいない。町内での整備状況と町内全線開通見込み年度は。

答（建設・下水道課長）
歩道整備にかかる事業費は、29年度17,909千円、30年度18,094千円、元年度20,324千円。整備延長は3年間で200.6mである。なお、全線開通見込み年度は、明確な年度は示されていない。

コロナ禍における学びの保障について

Q 主体的・対話的で深い学びをするための工夫は

A 今年度、児童生徒に一人一台タブレットを配布

コロナ禍における学びの保障について

問 ①学校現場での感染対策は。

②主体的・対話的で深い学びをするための工夫は。
③授業時間確保の取り組みは。
④学力格差拡大の懸念があるなかでの対応は。

答（学校教育担当課長）
①学校現場では、手洗い、うがい、マスクの着用、こまめな換気等を徹底・継続している。登下校時は、一列になりマスク着用の励行、大声での会話を慎む等の指導を行った。学校では、昇降口に密集しない、窓を開放する、教室では対面でのグループワークを避ける、机の配置を工夫する、ソーシャルディスタンスの意識付けタブレットを椅子の間に貼る他、学級を2グループに分け2つの教室で行っている。

また、音楽科での歌唱指導、技術・家庭科の調理実習、保健体育科の密集する運動や近距離での運動等、リスクの高



体育館での授業風景

い指導は教職員で研修し確認をしている。
給食時は、食事中だけではなく配膳の準備や後始末もそれぞれのなかでのルールを徹底。放課後は、教職員や学習アシスタントが消毒の徹底。冬場は、暖房を入れ換気を十分にすると共に、全教室で加湿器を使う等、様々な防止対策を図っている。
②新学習指導要領実施に伴い、主体的・対話的で深い学びを小・中学校で進めている。グループ学習やペア学習は密になりやすいので、各校で様々な工夫をしている。

ある中学校の数学の授業では、教室内でのソーシャルディスタンスを確保のうえ、ノートやレポート等の記述、教師による行動観察から、静的ながらも主体的に学習に取り組む態度の評価を行っている。また、深い学びにつながる発問や、課題解決に向かう学習を設定することにより、仲間だけでなく自分との対話を深める活動をしている。
GIGAスクール構想で一人一台端末の導入後は、タブレットや電子黒板を使い協働学習が可能なことから、密を避けるための主体的・対話的で深い学びが期待できる。

③子どもに無理なく、負担過重とならないよう配慮しながら、夏休み・冬休みの長期休業期間の短縮、短時間学習の設定、運動会や体育大会、文化祭等の行事の精選・短縮、日課表の一部変更による学習時間の確保、放課後学習等により授業時間を確保している。
そのうえで指導すべき内容をしっかりと指導できるように、組織的に随時チェックし、計画的に教育活動を実施している。なお今年度中の授業時数

は、確保できる見込みである。
④特に不登校傾向にある子ども、生活リズムが乱れがちな子ども、学力の定着に時間を要する子ども、日本語の理解が難しい子ども等、配慮を要する子どもに対しては、十分に子どもの状況を見極め、支援することが必要である。
まずは、生活リズムを確立し、家庭でも学ぶ姿勢を持たせることが大事である。
また、子どもへの声掛けを行い、保護者とのコミュニケーション等を十分に図りながら、子どもの実態や発達段階に応じて、主体的な学びにつながるよう支援している。重層的な課題のある子どもに対しては、スモールステップで学習指導を進め、苦手な学習内容についても理解が深まるよう力を入れている。

さらに、各小・中学校への学習アシスタントの配置や放課後小学3年学習補充教室の活用等により、学力格差が生まれないよう取り組んでいる。



徳田 文治 議員